

「鹿児島近現代」教育研究センター

近現代センター通信

第7号 2026年3月

目次

共同シンポジウム「東京と鹿児島 二つの島津邸をめぐる近現代」(丹羽謙治)	1	セミナー「近現代考古学の展望」開催報告(石田智子)	11
連続トークイベント第1回(江山)	3	「鹿児島市全景」写真の撮影地点と年代(小林善仁)	13
連続トークイベント第2回(藤村一郎)	4	学校資料のゆくえ(佐藤宏之)	17
水俣病読書会 第8期“水俣病ことはじめ”(中川亜紀治)	5	高校生による地域協働史(清川康雄)	19
連続トークイベント第3回(鈴木優作)	6	近世蒲生郷久末村の今村門と名越彦太夫(銀屋健二)	21
国際ナショナル・フレンドシップ・イベント(日高優介)	7	鹿児島市の学舎成立と変遷について(友野春久)	23
連続トークイベント第4回(竹村茂紀)	8	島津貴晴と中島河太郎(鈴木優作)	26
連続トークイベント第5回(東川隆太郎)	9	寄贈資料・今後の予定	28

清泉女子大学人文科学研究所・鹿児島大学法文学部附属「鹿児島近現代」教育研究センター

共同シンポジウム「東京と鹿児島 二つの島津邸をめぐる近現代」の開催

「鹿児島近現代」教育研究センター センター長 丹羽 謙治

令和7年11月8日(土)に、清泉女子大学人文科学研究所と弊センターとの共同シンポジウム「東京と鹿児島 二つの島津邸をめぐる近現代」を開催しました。当日は好天に恵まれ、多くの方々のご参加を得ることができました。弊センターの秋のシンポジウムは今回で4回目となりますが、他大学と共同で、また二つの会場を設けて対面とオンラインのハイブリッド方式で開催したのは初めての試みです。

清泉女子大学の本館はJ.コンドルの設計した重要文化財に指定されている貴重な建物です。本シンポジウムは、この大正6年(1917)竣工の島津家本邸と鹿児島の別邸(明治初めに本邸)であった磯邸を対象として、東京と鹿児島の結びつきを考える催しとして企画しました。

3年ほど前より当時の清泉女子大学の学長の佐伯孝弘先生、および同大学人文科学研究所長大野俊先生に企画を提案し、計画

を進めていきました。大野先生が退職された後は、その後任の鈴木崇夫先生が引き継がれ、準備に当たっていただきました。

なお、本体のシンポジウムに関連して、鹿児島、東京それぞれでオプショナル・ツアーを開催しました。鹿児島ではシンポジウムの登壇者でもある小林善仁准教授に、鹿児島城下町まち歩きツアーをお願いし、東京では清泉女子大学の学生の案内による本館見学ツアーを実施していただきました。あっという間に定員に達してしまいましたが、どちらのツアーも好評をいただくことができました。

さて、シンポジウムについてですが、多くの方に鹿児島と東京の繋がりについてより関心を持っていただき、両地の交流を一層密にしていきたいと考え、それぞれ専門やご経験の異なる4名の専門家に講演をお願いしました。

一人目は、鹿児島会場から歴史地理学の

小林善仁先生（鹿児島大学准教授）。磯の別邸の歴史と鹿児島城下にあった他の島津家別邸についてわかりやすく解説していただきました。多くの方が驚いたのは、現在の鹿児島大学水産学部の敷地は明治期に設定された島津家の犬追物場の跡ということでした。土地利用の変遷には興味が尽きません。

続いてお二人目（以下、東京会場よりご登壇）は、日本近代史の狐塚裕子先生（清泉女子大学名誉教授）です。仙台の伊達家の別邸を島津家が購入し、その後清泉女子大学が取得するまでの歴史を、こちらもわかりやすくご説明いただきました。

三人目は、日本の建築史をご専門とされている石田潤一郎先生（武庫川女子大学教授）に、J. コンドルの建築の特徴について、そのシンメトリカルな外面をくずす形をとることを他の多くの建築との比較を通じて語っていただきました。

最後に日本近代史の専門で、長らく鹿児島の尚古集成館で学芸員をされておりました

寺尾美保先生（立教大学特任准教授）より、豊富な資料に基づいて、明治期の島津家の家政や島津家を支えた旧薩摩藩士について詳しくお話をいただきました。

その後、わずかの時間でしたが、丹羽が司会となって東京と鹿児島がどのように繋がりを保っていくのがよいのか、またどのようにしたら学生の交流などが可能になるのかなどについて話を伺う時間を設け、ご意見をいただきました。

会場や定員の都合でお断りをせざるを得なかったことや、時間が長くなってしまったことなど問題点はありましたが、おおむね好評を得て終了することができました。

清泉女子大学の学生及び教職員の皆様、会場を提供いただきました尚古集成館、島津興業の皆様、そしてご参加いただきました皆様にこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。鹿児島と東京が過去を振り返りながら未来に向けて絆を強固にしていけるよう、センターの活動を展開していきたいと考えております。

清泉女子大学人文科学研究
鹿児島大学文学部附属「鹿児島近代」教育研究センター
共同シンポジウム

東京と鹿児島 二つの島津邸をめぐる近現代

令和7年11月8日(土) 入場無料 オンライン配信あり
13:30~17:30

10:00~12:00	鹿児島会場 小林善仁先生の「イイハル島津城下町まち歩きツアー」(先着15人)
12:30~	東京会場受付
12:50~13:20	東京会場 清泉女子大学半蔵見学ツアー 清泉女子大学学生による「イイハル」(先着40人)
13:50~	鹿児島会場受付
14:30~	開会・講演 「近世・近代鹿児島島の島津邸」【鹿児島会場限定】 小林 善仁(鹿児島大学文学部准教授) 「輪少輪屋敷の変遷—仙台伊達家から鹿児島島津家へ—」【東京会場限定】 狐塚 裕子(清泉女子大学名誉教授) 「近代建築史の中の旧島津家本邸」【鹿児島会場限定】 石田 潤一郎(武庫川女子大学教授、京都工芸繊維大学名誉教授) 「大名華族島津家の家政と二つの邸宅—輪・嶋島津邸と嶋島津邸を中心に—」【鹿児島会場限定】 寺尾 美保(立教大学特任准教授)
15:50~	対談「東京と鹿児島が交流しながら、島津家および島津邸の歴史をいかに伝え、未来に活用していくか」
17:30	閉会

会場 東京約 鹿児島会場

東京会場 清泉女子大学 140教室
〒141-8642 東京都品川区東品川5-16-21

鹿児島会場 尚古集成館 講堂
〒892-4811 鹿児島県鹿児島市吉野町9808-1

申込方法
 ●東京会場(清泉女子大学)への参加は「Zoom」(ZOOM)のリンク先から参加して希望の方は、右のQRコードから専用「Zoom」アプリをダウンロードし、必要事項を入力の上お申し込みください。
 ●鹿児島会場(尚古集成館)への参加はご希望の方は、下記のメールか電話でお申し込みください。
 鹿児島大学文学部附属「鹿児島近代」教育研究センター
E-mail: kimgendajim@leh.kagoshima-u.ac.jp TEL: 099-285-7532(担当/佐藤、江)
 ●鹿児島会場での歩きツアーの詳細については、「鹿児島近代」教育研究センターHPをご覧ください。
 【応募締切】2025年11月7日(金) 17:00まで
 東京会場・鹿児島会場ともに、定員に達し次第の応募を締め切らせていただきます。
 清泉女子大学関係の「近現代」に関するお問い合わせは、近現代センターまで。
 尚古集成館の取組は別添付資料をご覧ください。

後援/株式会社 島津興業 島津家財宝財団 尚古集成館



(上) 東京会場、(下) 鹿児島会場の様子